

しょうもない俺、
それこそが落語だ

監督・脚本
鈴木 太一

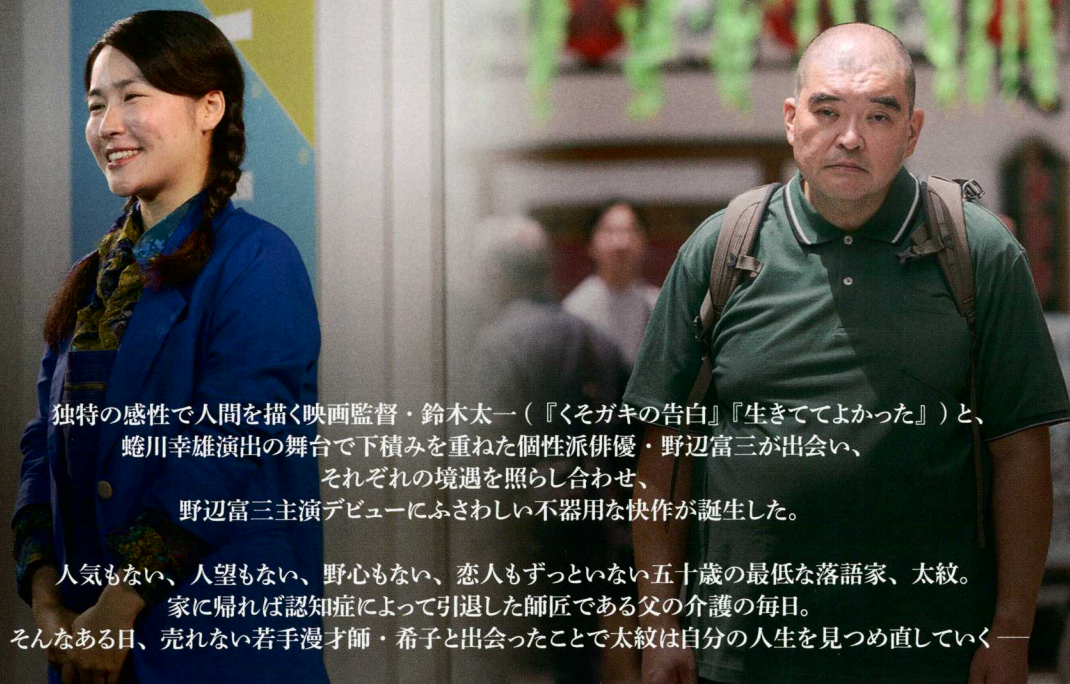
片岡 礼子
渡辺 哲

和田 光沙
杉本 凌士

今野 浩喜
今川 宇宙

出演
野辺 富三
辻 風子

最低な二代目落語家と、底辺から高みを目指す漫才師の 不器用な師弟関係がみせる、情けなくも心燃ゆる人間賛歌!!



独特の感性で人間を描く映画監督・鈴木太一（『くそガキの告白』『生きててよかった』）と、
蜷川幸雄演出の舞台で下積みを重ねた個性派俳優・野辺富三が出会い、
それぞれの境遇を照らし合わせ、
野辺富三主演デビューにふさわしい不器用な快作が誕生した。

人気もない、人望もない、野心もない、恋人もずっといない五十歳の最低な落語家、太紋。
家に帰れば認知症によって引退した師匠である父の介護の毎日。
そんなある日、売れない若手漫才師・希子と出会ったことで太紋は自分の人生を見つめ直していく――



みんな笑え

出演：野辺富三 辻風子／今野浩喜 今川宇宙 和田光沙 杉本凌士／片岡礼子 渡辺哲
監督・脚本：鈴木太一
プロデューサー：沖正人 ワダシンスケ 撮影監督：福田陽平 撮影照明：杉山慶 猿橋雄基
録音・整音・MIX：茂木祐介 編集：宮崎歩 音楽：倉堀正彦 音響効果：北澤亨
美術：西沢和幸 ヘアメイク：美名子 かつみ綾音 衣裳：大場千夏 助監督：小山亮太
制作担当：谷川詩織 宣伝：浦谷晃代 落語監修：桂枝太郎
特別協力：公益社団法人落語芸術協会 配給協力：トリプルアップ 製作・配給：ナミキリズム
©2024 映画「みんな笑え」製作委員会 (日本／カラー／ステレオ／シネスコ／105分)



minnawarae.com



演芸界 絶賛！応援コメント

三遊亭山遊三 ―落語家

一度でも平日の寄席に行つた事のある人は思い出して頂きたい。何となく退廃的で無気力な空間。どんな座席にめり込んでいく様な空気。そんな雰囲気はどこから生まれるのか。この映画を観ると解るかもしれない。寄席の笑いは一瞬ではない。

桂米助（ヨネスケ） ―落語家

この映画は、今の世の中、介護と格差社会、適応障害など現在の社会問題を凝縮した作品です。ただ本職の落語仲間が何処へ出て来るのか楽しみにしてください。

春風亭昇太 ―落語家

どうしようもない、情けない人しか出てこないこの映画は、なんだかリアルで、なんだか切ない。

林家たい平 ―落語家

生きていくって大変だ。でも大変だから生きていくことが楽しいんだと思う。その生き方のお手本がたくさん詰まっているのが落語。最後に笑って、楽しかったって思える人生が一番幸せだ！って教えてくれる。

搞笑之（ナイツ） ―漫才師

落語・漫才は人が人前で行う究極の体験発表。苦勞を笑いに転換出来る。人が考えた最高の知恵であり最高の武器。その為に人と関わって生きていく。また人が好きになりました。

神田伯山 ―調教師

何にもなくても、落語さえあれば希望がある。渡辺哲さんの演技に打ちのめされました。



2025年10月25日[土] 14:00開映(13:30開場) 料金 1,000円[全席自由]

会場・プレイガイド・お問合せ

松本市波田文化センター ACTHALL 〒390-1401 長野県松本市波田 10106-1

電話 0263-92-7501 窓口 波田文化センター1階 (9時~17時/休館：月曜・祝日の翌日)

劇場で上質な映画を観よう

主 催：一般財団法人 松本市芸術文化振興財団 特別協力：NPO 法人 松本 CINEMA セレクト 後 援：松本市 松本市教育委員会